

(国土交通省、東京都速記メモ)

東京外かく環状道路(関越道～東名高速) 沿線区市長意見交換会(第2回)概要メモ

1. 日時: 平成15年1月15日(水) 午前10時30分～11時30分
2. 会場: 東京都庁第一本庁舎北側42階 特別会議室B
3. 出席者: 大場 世田谷区長、矢野 狛江市長、長友 調布市長、内田 三鷹市助役(代理)
土屋 武蔵野市長、倉田 杉並区部長(代理)、岩波 練馬区長
渡辺 関東地方整備局長、勝田 東京都都市計画局長

4. 概要:

(1) 国及び都からの説明概要

- ・平成14年11月29日に東京環状道路有識者委員会から最終提言を頂いたので、この提言を尊重し、早急に外環の方向性を定めていく。
- ・沿線への影響を小さくするため、地下構造で、早く・安く完成できるよう十分考慮する。トンネル構造については、3車線で「たたき台」(外径約1.8m)より小さくする。
- ・さらに、ジャンクション及びインターチェンジとの関係を考慮しながら、大深度法の活用を検討する。
- ・また、インターチェンジについてはインターチェンジ無しを検討の基本とするが、その設置については地元の意向等を踏まえる。

(2) 各区市から出された意見概要

(練馬区)

- ・外環の整備については基本的には賛成である。
- ・長い間、事業化されずに計画線だけが残っているためにまちづくりが進まない。
- ・外環整備にあわせて、西武新宿線との立体交差化などまちづくりを進めていきたい。
- ・大泉周辺は、関越及び外環の端末となっており、住宅地に車が入り込んで渋滞して困っている。
- ・青梅街道にインターチェンジをつくらないのであれば外環の整備に反対する。

(杉並区)

- ・外環は広域的な幹線道路として必要な道路と考えている。
- ・今回の方針は、杉並区民への影響がより少なくなるという点で評価している。
- ・大深度法の活用等の検討に当たっては、周辺環境への配慮及び住民との合意を十分図られるよう要望する。

(武蔵野市)

- ・現在の高架構造の外環には反対する。
- ・道路の必要性ということについては、広域の道路網整備は必要という認識。
- ・できるとすれば、地下しかない。
- ・完成までの期間を早めることが重要である。
- ・大深度トンネルは早く完成できる一つの方法ではあるが、地上の補償がなくなる。永年にわたり権利制限された方々への配慮をどうするかという課題が残る。
- ・大深度で高速道路だけをつくるだけでいいのか。時間をかけてグリーンベルトを構成していく等の大胆な構想も必要なのではないか。

(三鷹市)

- ・大深度方式でおこなうことに対しては反対ではないが、あくまで「たたき台」を議論の素材として検討を進めていくべき。
- ・市内には、市内にICとJCTが計画されており、騒音や大気汚染など周辺環境に及ぼす影響が極めて大きいものと考ええる。また、ICありなしで周辺環境が大きく変化する。
- ・大深度地下ならば、ICや中央JCTも地下化できないか。そして、JCTの上部にビルなどを建てることも検討できないか。
- ・早く具体的な情報提供(交通量、環境への影響)をしてもらいたい。

(調布市)

- ・PI協議会、有識者委員会、並びに本日の意見交換会の意見を踏まえて、再度、市民、市議会の方々の意見もお聞きしたい。
- ・都市機能、交通環境から外環の必要性は認識しているが、今後、環境への影響など配慮が必要なこともある。
- ・技術的なことも含めて、より詳細な情報を提供して欲しい。

- ・まちづくり（市内交通網との連携等）への配慮をお願いしたい。
 - ・ＩＣの必要性の有無については、検討の余地があると認識している。
- （狛江市）
- ・高架計画は反対だが、地下を中心とした検討はあらためて必要。
 - ・ＰＩ協議会での協議を重視すべき。
 - ・今回のやり方は、合意形成を諮る上で配慮に欠けていた。ＰＩ協議会の場で先に出すべきではなかったか。ＰＩ協議会を大事にして欲しい。今回の発表は、是非を含めて検討の素材として必要という理解をしていたが、テレビ報道等で見る限り、国と都が腹を決めたという印象を得た。今後の協議の成り行きを心配している。
 - ・インターチェンジの設置については、ＩＣが設置される自治体だけでなく周辺自治体からも意見を聞いて欲しい。
 - ・地下水への影響、粒子状物質の影響等について明らかにして欲しい。大深度トンネルでの安全対策等を十分に議論すべき。

- （世田谷区）
- ・外環は都市機能の再生に役立つ。
 - ・国と都の方針は、環境への影響が小さい地下方式が基本であり、早期の完成を目指していることから評価している。
 - ・計画づくりに際しては、野川、国分寺崖線などの自然環境、地下水、湧水、動植物への影響等の環境対策に万全を期して欲しい。
 - ・世田谷通りＩＣは慢性的渋滞が現在でも発生しており、ＩＣの設置の有無の検討では、環境や交通の問題について周辺地域へ十分配慮願いたい。
 - ・計画づくりが進展し、１日も早い完成を望む。

（３）意見交換

- （武蔵野市）
- ・大深度でやるということを決めたのか。
- （国土交通省）
- ・大深度法の活用を検討するということであって大深度で決定したということではない。ひとつの選択肢としてあるということ。国と都の方針は資料４のとおり。

- （武蔵野市）
- ・ＰＩ協議会は決定機関ではないが大事にしてもらいたい。
 - ・永年にわたり権利制限をされてきた現実を踏まえて十分に配慮すべき。
 - ・都市計画としては、中長期的にものを考えて緑を大事にした方がいいのではないかと考える。交通機能だけでなく、トータルで都市計画を考えてもらいたい。
- （東京都）
- ・ＰＩ協議会はよりよい方向付けをするのが目的で、決定する場ではない。丁寧に意見を聞くことは大事であり、今後は運営も考えていきたい。
 - ・権利制限の件については、いろいろな方々のご意見を聞いていきたい。土地の買い取りということもある。
- （国土交通省）
- ・ＰＩ協議会で丁寧に意見を聞くことは大事である。
 - ・権利制限の問題については、行政、地域の方々のご意見を聞きながら意見交換をしていきたい。

- （練馬区）
- ・インターチェンジ無しを基本とされては困る。青梅街道ＩＣは必要である。
- （国土交通省）
- ・最終提言では、「ＩＣなし地下案を検討の基本に、一定期間内に地元区市からの明確な要請がなされた場合はＩＣ設置を盛り込んだ案も検討できるように配慮すべきである。この場合においても交通の利便性の向上や移転家屋数などについての配慮は不可欠である。」とされており、これを尊重していきたい。インターチェンジの有無に関わらず、交通改善効果は同程度の効果が期待される。地上部の利用は、地域の実状や意向等を踏まえていく必要がある。
 - ・近々、次回の意見交換会を開催して、それまでに各ＩＣの設置要望の有無などについても調整させていただく。
- （東京都）
- ・上部利用についてであるが、大深度に関わらずＩＣ周辺では何らかの形で地上利用が必要。道路として必要な部分とそれ以外があり、今後、道路構造等具体の絵柄の中で議論していきたい。

- （調布市）
- ・「インターチェンジについて一定期間内に明確な要請」とはどのようなイメージか。
- （国土交通省）
- ・最終提言では一定期間がどのくらいの期間かは明示されていないが、時間管理が大事という認識。今回のような意見交換の場を通じてお聞きしてまいりたい。